

令和8年度

病害虫発生予察情報

第13号

7月月報

北海道病害虫防除所 令和8年(2026年)8月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－暖かい空気に覆われやすく、かなりの高温。暖かく湿った空気や低気圧の影響で多雨。－

7月は、偏西風が北へ蛇行し平年より北を流れたため、暖かい空気に覆われる日が多く、北海道地方の気温はかなり高かった。一方で、上旬と下旬にオホーツク海高気圧から冷たい空気が流れ込み、低温となる日もあった。また、暖かく湿った空気や低気圧の影響で広く大雨となった日が多かったため、日本海側と太平洋側の降水量は多かった。

上旬：暖かく湿った空気や気圧の谷の影響で雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、太平洋側の降水量は少なく、北海道地方の日照時間は多かった。また、3日頃までオホーツク海高気圧から冷たい空気が流れ込んだが、その後は暖かい空気に覆われたため、北海道地方の気温は高かった。

中旬：低気圧や暖かく湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多く、北海道地方の降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なかった。特に、日本海側の旬降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、大きい方から第1位の記録となった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方では気温がかなり高く、北海道地方と日本海側、オホーツク海側の旬平均気温の平年差が1946年の統計開始以降、大きい方から第2位の記録となった。

下旬：低気圧や暖かく湿った空気の影響でまとまった雨となった日もあったが、影響を受けにくかったオホーツク海側の降水量は少なかった。また、オホーツク海高気圧の影響で冷たい空気が流れ込みやすかったため、曇りの日が多く、オホーツク海側の日照時間は少なく、北海道地方の気温は平年並だった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+1.7	か高	130	多	96	並
日本海側10 地点平均	+1.9	か高	154	多	103	並
オホーツク海側4 地点平均	+2.1	か高	77	並	91	並
太平洋側8 地点平均	+1.4	か高	127	多	88	並

注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期(本田) 並 発生量 やや多

予察田の「ななつぼし」および「きらら397」における本田での初発期は、岩見沢市および北斗市で平年より遅く、比布町で平年より早かった。予察田における葉いもちの発生量は、北斗市で平年並、岩見沢市及び比布町で平年より多かった。

一般田における巡回調査の報告によると、発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	6月23日	6月23日	7月17日	7月10日	10
比布町	ななつぼし	6月18日	6月22日	6月26日	7月12日	10
北斗市	きらら397	6月12日	6月11日	7月6日	6月30日	10
	ななつぼし	6月12日	-	7月4日	-	-

注) 北斗市「ななつぼし」は平年値なし

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	0	0.6	11.0	2.9	25.0	13.6	10
比布町	ななつぼし	0	1.8	25.0	13.6	44.0	31.6	10
北斗市	きらら397	0	4.1	10.0	12.2	18.0	19.8	10
	ななつぼし	0.0	－	17.0	－	25.0	－	－

注) 北斗市「ななつぼし」は平年値なし

注) 岩見沢市及び北斗市の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0	0	0	0	渡島	本所	1	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0	檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	4	0	0	0	0		北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0	上川	本所	7	0	0	0	0.0
	北空知	6	0	0	0	0		富良野	3	0	0	0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0		大雪	3	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	士別	2	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	3	0	0	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	5	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0

2. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ（第2回）：やや早、セジロウンカ：並 発生量 並

予察灯におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや早かった。水田すくい取りによる初発期は、長沼町で平年よりやや遅く、比布町で平年より早く、北斗市では平年より遅かった。予察灯による成虫誘殺数は、長沼町及び北斗市で平年よりやや多かった。水田すくい取りによる捕獲数は、長沼町で平年より少なく、比布町で平年よりやや少なく、北斗市では平年並であった。

予察灯におけるセジロウンカの初発期は、長沼町で平年より遅く、北斗市で平年よりやや早かった。長沼町では、7月中は誘殺が認められなかった。水田すくい取りによる初発期は、長沼町で平年より早く、北斗市では平年より遅かった。比布町では捕獲が認められなかった。予察灯における成虫誘殺数は、北斗市で平年よりやや少なかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町及び北斗市で平年並であった。

一般田における巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度（成虫：1,800頭、または幼虫：900頭）に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	2.1	0	2.8	0	2.5	0	1.8
2半旬	58	3.1	56	14.4	0	11.5	17.5	3.5	0	2.5
3半旬	149	26.9	94	19.1	5.0	7.6	17.5	8.0	2.5	2.8
4半旬	282	179.2	39	73.4	5.0	10.1	20.0	15.8	0	4.3
5半旬	161	53.7	54	31.4	5.0	14.8	12.5	63.5	7.5	10.0
6半旬	11	156.9	32	46.2	7.5	10.7	38.5	111.5	10.0	7.8
初発期	7月10日	7月9日	7月7日	7月10日	7月14日	7月9日	6月29日	7月10日	7月13日	7月4日
平年数	10		10		10		10		10	

注) 初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	1	4.3	0	0	0	0	0	3.5
2半旬	0	0	0	5.7	0	0	0	0.3	0	5.0
3半旬	0	0	5	0.9	2.5	0.3	0	0.5	0	4.0
4半旬	0	0.7	4	7.8	0	0	0	0	0	2.2
5半旬	0	0.6	30	7.9	0	0	0	1.5	10.0	1.8
6半旬	0	3.7	14	67.2	0	2.4	0	1.5	5.0	3.5
初発期	8月7日	7月30日	7月5日	7月9日	7.Ⅲ	8.Ⅰ	—	8.Ⅰ	7.Ⅴ	7.Ⅱ
平年数	10		10		10		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及 センター	地点	数	7月6半旬		普及 センター	地点	数	7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	3.5	1.5	渡島	本所	1	0	0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	1.5
	南西部	4	0.8	2.3		北部	2	0	0.5
	中空知	4	0	0	上川	本所	7	1.0	30.4
	北空知	6	0	0		富良野	3	0	0
石狩	本所	2	0	17.5		大雪	3	4.3	18.5
	北部	7	0.1	0		士別	2	1.0	0
後志	本所	4	0	0	留萌	名寄	3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0		本所	5	0	0
日高	西部	2	0	0		南留萌	2	0	0

3. イネドロオイムシ

発生量 少

予察田における幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。被害株率は、長沼町及び北斗市で平年より低かった。比布町では幼虫の発生、被害ともに認められなかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、移植栽培の減収水準である被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害株率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	48	102.4	0	4.0	2	45.2	44	92.3	0	4.0	14	33.8
2半旬	24	75.5	0	4.3	0	31.4	52	96.0	0	8.9	18	38.9
3半旬	17	52.0	0	4.7	0	16.4	72	96.7	0	12.9	10	43.1
4半旬	9	24.8	0	1.6	0	7.9	80	95.3	0	14.7	8	46.0
5半旬	4	13.7	0	0.2	2	4.1	72	95.1	0	14.2	8	45.1
6半旬	2	3.9	0	0.6	2	1.3	60	93.1	0	8.4	8	43.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及センター		地点数	幼虫数		被害葉率(%)		普及センター		地点数	幼虫数		被害葉率(%)	
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0	0.8	0.3	0	渡島	本所	1	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0		檜山	本所	2	0	0	0
	南西部	4	1.8	0	0.8	0			北部	2	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0		上川	本所	7	0	0	0
	北空知	6	0	0	0.7	0	富良野		3	0	0	0	0
石狩	本所	2	0	0	0	0	大雪		3	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	士別		2	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄		3	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0.5	0	0	0	留萌	本所	5	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

4. 斑点米カメムシ類 (第2回)

発生期 やや早 発生量 やや多

<8月3日付け注意報第3号>

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメ (以下、アカヒゲ) 第2回成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、北斗市では平年並だった。アカスジカスミカメ (以下、アカスジ) の初発期は北斗市で平年より早かった。予察田における水田すくい取りによるアカヒゲの初発期は、長沼町及び北斗市で平年より早く、比布町では平年並だった。アカスジの初発期は北斗市で平年より遅かった。予察田のフェロモントラップによるアカヒゲの初発期は、長沼町で平年よりやや遅く、比布町で平年より早く、北斗市では平年並だった。

予察灯による成虫誘殺数は、アカヒゲは長沼町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。アカスジは北斗市で平年よりやや多かった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、アカヒゲは長沼町で平年並、比布町で平年よりやや少なく、北斗市では平年より多かった。アカスジは、北斗市で平年よりやや少なかった。予察田のフェロモントラップによるアカヒゲの誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、比布町及び北斗市では平年より多かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの「ななつぼし」の追加防除の基準である捕獲数1頭以上となった水田は、全71調査地点のうち、空知、石狩、胆振、檜山、上川、留萌地方の計19地点、「ゆめびりか」の追加防除の基準である捕獲数2頭以上となった水田は、空知、石狩、胆振、檜山、上川、留萌地方の計8地点であった。

アカヒゲホソドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	11.3	51	37.8	0	0.3	0	0	0	1.3
2半旬	58	86.1	701	102.4	0	0.5	0	0	0	0.5
3半旬	402	214.3	341	54.9	0	0.3	0	1.0	2.5	0.8
4半旬	415	736.9	263	201.1	5.0	2.6	0	7.0	5.0	0.3
5半旬	562	854.0	399	243.3	2.5	8.1	2.5	4.0	7.5	2.0
6半旬	56	1030.1	125	209.0	5.0	5.3	2.5	2.5	7.5	3.7
初発日	6月26日	7月4日	7月1日	7月2日	7月18日	7月25日	7月24日	7月22日	7月13日	7月24日
平年数	10		10		10		10		10	

アカスジカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数		水田すくい取り数	
	北斗市		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	7.7	0	0.7
2半旬	87	15.7	0	0
3半旬	22	12.5	0	0
4半旬	20	13.8	0	1.8
5半旬	50	30.0	0	7.5
6半旬	51	72.7	12.5	16.4
初発期	6月1日	7月1日	7月27日	7月16日
平年数	10		10	

予察田におけるアカヒゲホソドリカスミカメのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.5	3	0.5	6	5.2
2半旬	1	1.5	7	1.5	14	4.2
3半旬	3.7	2.9	36	3.8	29	6.5
4半旬	4.5	3.9	18	6.3	24	5.0
5半旬	0.8	6.7	24	15.5	8.3	10.6
6半旬	3.5	9.4	13	13.0	11.7	18.1
初発期	7月14日	7月11日	6月29日	7月14日	7月10日	7月10日
平年数	10		10		10	

巡回調査による斑点米カメムシ類成幼虫の20回振りすくい取り数

普及 センター		地点 数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	1.0	0.5	0.5	1.5	0.2	3.8
	南東部	2	1.5	0.5	0	0.5	0	0
	南西部	4	0.3	1.5	0.3	0.3	0.8	3.0
	中空知	4	0.8	3.3	1.0	2.8	0	1.5
	北空知	6	0.3	12.2	0.2	2.3	0.2	1.0
石狩	本所	2	0	0	0	0	1.0	0
	北部	7	4.0	0	3.0	0	0.6	1.1
後志	本所	4	2.8	0	0.3	0.3	0	0
胆振	東胆振	4	0.8	0.5	0.3	0	1.0	0.5
日高	西部	2	0.5	0	0	0.5	0	0.5
渡島	本所	1	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	12.5	0	0	1.0	0.5	0
	北部	2	16.0	0	4.5	0	1.5	0
上川	本所	7	3.9	3.1	0.6	1.3	0.1	2.0
	富良野	3	0.7	0	1.3	0.3	0.7	1.7
	大雪	3	0	0.5	4.3	0.3	0.3	2.3
	士別	2	0	2.0	0.5	0	1.5	1.0
	名寄	3	0	6.3	0	0	0	0
留萌	本所	5	1.0	9.3	1.2	0.8	1.2	3.3
	南留萌	2	1.0	2.0	0	0	0	3.5

5. フタオビコヤガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年より多かった。比布町及び北斗市では誘殺が認められなかった。幼虫による予察田の被害株率は、長沼町で平年よりやや低く、比布町では平年並であった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害株率(%)			
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	104.6	39.8	0	0.2	0	0	20	15.7	8	2.8
2半旬	119.0	37.4	0	0.5	0	0	20	20.7	8	2.0
3半旬	104.4	26.3	0	0.7	0	0	20	28.0	8	5.3
4半旬	50.9	17.5	0	0.3	0	0	20	46.4	8	7.6
5半旬	104.9	24.3	0	4.8	0	0.3	—	48.8	4	9.0
6半旬	46.9	41.6	0	6.8	0	0.3	—	62.4	0	6.5
平年数	3		3		3		6		10	

注) — : 他害虫被害により調査不能

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「きたほなみ」における発生量は、芽室町および訓子府町で平年より少なかった。発生菌種は、芽室町では*F. graminearum*、訓子府町では*M. nivale*の割合が高かった。長沼町では発生が認められなかった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)				
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.	不明
長沼町	きたほなみ	0	6.3	10	—	—	—	—	—
芽室町	きたほなみ	1.0	8.0	10	22.7	0	68.2	4.5	4.5
訓子府町	きたほなみ	0.1	9.0	10	70.0	5.0	25.0	0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*、不明: 菌種不明

注) 長沼町は発生なし

2. アブラムシ類 発生量 並

訓子府町の予察ほにおいて、ムギヒゲナガアブラムシ及びムギクビレアブラムシの発生量は平年並だった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	—	2.4	2.5	6.2	—	0.7	2	1.5
2半旬	—	1.3	6.5	5.5	—	1.0	5.5	2.1
3半旬	—	0.3	0	2.7	—	0.3	0	0.1
4半旬	—	0	0	3.8	—	0	0	0
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

注2) — : 調査打ち切り

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、比布町および長沼町で平年より少なかった。発生菌種は、2地点とも *F.graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	2.3	28.9	10	0	0	100	0
比布町	春よ恋	0.1	2.2	10	0	0	100	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. とうもろこし

1. オオタバコガ 発生量 多

<6月22日付け注意報第2号>

フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町及び北斗市で平年より多かった。比布町、芽室町及び訓子府町では誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	2.6	0	0.3	0	0	0	0	0	0
2半旬	4	0.4	0	0.4	1	0	0	0	0	0
3半旬	2	0.4	0	0.2	1	0.1	0	0	0	0
4半旬	0	0.4	0	0.2	2	0	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	0	0.6	1	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.4	0	0	1	0.7	0	0	0	0
平年数	10		10		10		9		9	

Ｅ．豆類

１．菌核病（菜豆） 発生期 やや遅 発生量 やや多

芽室町の予察ほにおける初発期は、平年よりやや遅かった。発生量は、平年より多かった。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると、いずれの地点においても発生は認められていない。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月21日	7月17日	1.0	0.9	10.0	2.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬	
			本年	前年
上川	士別	1	0	0
網走	美幌	2	0	0
十勝	本所	3	0	0
	東部	5	0	0
	東北部	2	0	0
	北部	3	0	0
	西部	1	0	0

２．灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや早 発生量 やや多

予察ほにおける初発期は、長沼町（小豆）では平年より早く、芽室町（菜豆）では平年よりやや早かった。発生量は、長沼町で平年より少なく、芽室町では平年より多かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、小豆では上川および十勝地方で、菜豆では十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月27日	8月2日	0	0	0	0.8	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況(菜豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月14日	7月18日	19.0	3.9	20.0	6.6	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月6半旬					7月6半旬			
			本年	前年				本年	前年		
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0		
後志	本所	2	0	0			網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0					網走	美幌	2
	東胆振	2	0	0	3	0					0
檜山	本所	2	0	0	十勝	本所	4	0			0
	北部	1	0	0			東部	8	0.6	0	
上川	大雪	2	0.5	0			東北部	2	0	0	
	士別	2	0	0			北部	3	0	1.7	
							西部	2	0	0	
							南部	7	0	0	

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬	
			本年	前年
上川	士別	1	0	4.0
網走	美幌	2	0	0
十勝	本所	3	0	0
	東部	5	0	0.1
	東北部	2	0	0
	北部	3	0.7	8.3
	西部	1	0	0

3. 食葉性鱗翅目幼虫(大豆・小豆) 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、大豆では長沼町で平年よりやや低く、訓子府町では平年並だった。小豆では長沼町で平年より低く、訓子府町では平年よりやや高かった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	5.9	7	3.9	3	3.5	1	0.6
2半旬	3	9.0	7	6.2	3	3.8	3	1.8
3半旬	13	12.1	12	10.0	3	5.4	8	3.0
4半旬	16	17.1	25	14.7	4	6.2	12	4.9
5半旬	23	25.9	25	20.6	5	10.4	18	7.9
6半旬	24	31.2	25	24.2	5	13.7	21	11.5
平年数	10		10		10		10	

4. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 やや少

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町で平年よりやや少なく、訓子府町で平年並、芽室町では平年より少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	1.3	1	2.4	2	2.6
2半旬	0	1.4	0	4.1	6.5	1.1
3半旬	0	0.5	0	6.8	4	1.9
4半旬	1	0	1	7.7	0	2.7
5半旬	0	0.3	0	2.9	0	1.1
6半旬	0	0.4	0	2.2	0	1.0
平年数	10		10		10	

注) 25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

5. マメアブラムシ（小豆） 発生量 やや少

予察ほの小豆における寄生株率は、長沼町で平年並、芽室町及び訓子府町では平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	12	8.6	12	27.4	4	10.4
2半旬	12	9.6	8	30.8	8	16.8
3半旬	0	4.8	0	27.6	4	23.2
4半旬	0	0.8	0	20.8	8	20.4
5半旬	0	0	0	6.8	4	10.4
6半旬	0	0	0	3.6	0	8.4
平年数	9		10		10	

F. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 少

予察ほの「とうや」における発生期は、長沼町で平年より遅かった。発生量は、平年より少なかった。北斗市、芽室町及び訓子府町での発生は認められていない。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、後志、檜山、上川およびオホーツク地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	8月3日	7月19日	8
	スノーマーチ	7月30日	7月20日	8
北斗市	とうや	未発生	7月6日	10
芽室町	とうや	未発生	7月13日	10
	スノーマーチ	未発生	7月15日	10
訓子府町	とうや	未発生	7月14日	8
	スノーマーチ	8月10日	7月17日	8

予察ほにおけるばれいしの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0	0	0.5	0	4.2	0	13.3	－	32.7
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.8	0	3.8	0	11.3	1.0	20.6
北斗市	とうや	0	8.0	0	20.2	0	35.9	0	39.5	0	46.6	－	49.3
芽室町	とうや	0	0.1	0	1.7	0	5.1	0	14.2	0	40.9	0	51.1
	スノーマーチ	0	0.5	0	2.3	0	6.2	0	11.2	0	29.7	0	47.9
訓子府町	とうや	0	0	0	0.4	0	2.3	0	5.8	0	16.8	0	37.1
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	1.6	0	4.0	0	11.1	0	31.7

注) 平年数は10年

注) － は調査不能

一般ほにおけるばれいしの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0.8	0
胆振	本所	2	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0
檜山	本所	2	18.5	0	18.5	0.5
	北部	2	17.0	0	2.5	3.5
上川	富良野	2	0	0	0	0
	大雪	2	0	0.5	0	1.0
	士別	2	3.5	2.0	14.0	44.5
	名寄	1	0	0	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	7	0	0	0	0
	清里	6	2.3	0	3.8	0
	網走	2	0	0	0	0
	美幌	2	0	0	0	0
十勝	本所	5	0	0	0	0
	東部	7	0	0	0	0
	東北部	2	0	0	0	0
	北部	3	0	0	0	1.7
	西部	2	0	0	0	2.5
	南部	7	0	0	0	1.1
釧路	本所	2	0	1.0	0	22.5
根室	北根室	1	0	0	0	0

2. アブラムシ類 発生量 並

予察ほにおけるアブラムシ類の発生量は、ジャガイモヒゲナガアブラムシは、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや少なかった。芽室町では発生が認められなかった。ワタアブラムシは、長沼町で平年よりやや多く、訓子府町では平年より少なかった。芽室町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、訓子府町で平年並であった。長沼町及び芽室町では発生が認められなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生頭数を超えたのは全65地点のうち、檜山及びオホーツク地方の計3地点であった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.5	0	1.9	0.4	4.3	6	2.0	0	0	5.2	3.5
2半旬	0	0.4	0	4.8	4.8	5.8	4	4.6	0	1.3	4.8	8.2
3半旬	0.5	0.4	0	6.3	2.4	5.1	25	4.1	0	0.2	0	13.4
4半旬	0.5	0.3	0	5.6	0.8	6.2	3	14.8	0	1.1	3.2	23.7
5半旬	0	0.1	0	4.6	0	4.0	6.5	8.4	0	2.2	0	42.1
6半旬	0.5	0	0	2.0	0	1.6	14	1.4	0	2.3	0	21.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

月・半旬	モモアカアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	0	0	0.4	0
2半旬	0	0.1	0	0	0	0.1
3半旬	0	0.2	0	0	0	0
4半旬	0	0.2	0	0	0	0.1
5半旬	0	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.1	0	0	0	0
平年数	10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター		地点 数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	4.0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0	
胆振	本所	2	1.0	0.5	3.0	10.0	モモアカ、ワタ
渡島	本所	1	3.0	15.0	0	15.0	ヒゲナガ
檜山	本所	2	1.5	0	5.0	1.0	ワタ
	北部	2	0	192.5	47.0	80.5	ワタ
上川	富良野	2	0	0	0	0	ヒゲナガ
	大雪	2	0	0	0	0	
	士別	2	0	0	0.5	0	
	名寄	1	0	0	0	0	
網走	本所	7	1.9	2.3	12.4	0.3	ヒゲナガ、ワタ
	清里	6	1.2	4.0	1.5	0	モモアカ
	網走	2	0	2.5	0	0.5	
	美幌	2	0	0	0	0	
十勝	本所	5	0.4	0	0.4	0.2	ヒゲナガ、ワタ
	東部	7	0.7	1.0	0.4	0	ヒゲナガ、ワタ
	東北部	2	0	4.5	0	0	ヒゲナガ
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0	0	0	0	
	南部	7	0.1	0	0	0	
釧路	本所	2	0	0	0	0	
根室	北根室	1	0	0	0	0	

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

G. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや多

予察ほの抵抗性”やや強”品種「ライエン」における発生量は、長沼町で平年並、芽室町で平年よりやや多く、訓子府町で平年より多かった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、全 71 地点のうち、石狩、胆振、上川、オホーツク及び十勝地方の 36 地点で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(やや強)	6月30日	7月6日	0.4	0.4	2.0	2.0	7.6	8.0	10
	カーベ2K314(強)	7月13日	－	0	－	1.2	－	9.2	－	－
芽室町	ライエン(やや強)	6月25日	7月1日	0	2.8	6.8	7.0	20.8	13.1	10
	あまいぶき(弱)	6月29日	7月1日	0	2.4	10.0	7.6	19.6	17.5	10
	スタウト(強)	6月25日	7月2日	0.4	2.8	5.2	6.6	15.2	13.1	10
訓子府町	ライエン(やや強)	6月30日	7月10日	0.8	0.5	4.8	2.2	20.8	8.7	10
	カーベ2K314(強)	7月7日	－	0	－	4.4	－	21.6	－	－

注)－は平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	1.0	0	2.0	網走	本所	9	0.8	2.0	2.7	7.8
石狩	本所	3	2.7	0	6.3	1.3		清里	4	5.8	1.0	2.5	4.3
後志	本所	3	0	0	0	0		網走	2	0	1.0	2.5	1.5
胆振	本所	4	5.0	1.5	5.0	4.0		美幌	6	14.3	3.2	19.2	3.0
	東胆振	2	0	26.0	0	32.7		遠軽	4	0.8	2.5	1.3	2.0
上川	富良野	2	0	4.0	0	4.5	十勝	本所	5	0.8	0.2	0.8	1.8
	大雪	2	0	0	0.5	0.5		東部	6	0	0.5	0.7	6.8
	士別	2	0	0	0	0		東北部	2	0	0	0	0
	名寄	1	0	2.0	2.0	4.0		北部	3	0	0.7	2.0	12.3
西部								3	0.7	2.0	5.0	12.0	
								南部	7	0	0	1.7	1.0

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける見取り調査では、被害程度は、長沼町で平年よりやや低く、芽室町で平年並、訓子府町では平年より高かった。卵塊は、いずれの地点も認められなかった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、被害株率が50%以上となる地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	食害程度						卵塊数(50株あたり)					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	21	25.8	17	16.3	18	2.4	0	0.2	0	0	0	0
2半旬	24	34.9	18	20.5	23	5.2	0	0.4	0	0	0	0
3半旬	26	46.0	26	24.9	24	8.1	0	0.2	0	0	0	0.1
4半旬	35	49.3	32	28.4	32	10.9	0	0	0	0	0	0
5半旬	40	54.5	34.5	31.7	33	14.9	0	0.1	0	0	0	0
6半旬	42	57.9	35.5	32.7	33	17.7	0	0.5	0	0	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	15.0	2.0	8.0
石狩	本所	3	11.0	16.7	6.3	6.7
後志	本所	3	10.7	2.0	8.7	1.0
胆振	本所	4	5.0	2.5	5.0	5.0
	東胆振	2	10.0	25.3	2.5	12.0
上川	富良野	2	0	8.0	0	17.0
	大雪	2	0	0	0	0
	士別	2	10.0	82.5	5.0	19.8
	名寄	1	0	46.0	0	20.0

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	9	8.4	31.4	4.4	11.6
	清里	4	14.8	28.5	2.3	10.3
	網走	2	8.0	25.0	4.0	15.0
	美幌	6	7.7	6.2	7.8	6.2
	遠軽	4	12.5	35.3	0.8	12.8
十勝	本所	5	7.2	8.0	1.0	5.2
	東部	6	0	16.0	9.0	4.3
	東北部	2	22.5	29.5	9.0	25.5
	北部	3	1.7	21.0	4.7	6.0
	西部	3	9.7	21.3	16.0	23.0
	南部	7	11.1	22.4	7.7	11.0

H. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 少

予察ほにおける発生量は、長沼町および訓子府町で平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品 種 名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	25.5	31.8	26.0	50.3	－	80.0	10
訓子府町	北もみじ2000	2.0	4.1	2.5	7.5	4.0	23.4	10

注) — :倒伏により調査不能

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	6.5	0	2.5	0
	南東部	3	0	0	0	0
	南西部	3	10.7	0	7.3	0
	中空知	2	0	0	0	0
石狩	北部	2	0	0	0	0
上川	富良野	4	3.8	0	6.3	4.0
	大雪	1	0	2.5	0	0
	士別	2	0	0	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	8	18.8	0	34.1	0
	清里	2	0	0	0	0
	美幌	4	3.5	0	6.0	1.0
	遠軽	1	8.0	0	11.0	0
十勝	本所	1	0	0	8.0	0
	東部	2	8.0	10.0	11.0	15.0

2. ネギアザミウマ 発生量 やや少

予察ほにおける寄生虫数は、長沼町で平年より少なく、訓子府町では平年並だった。被害程度は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、寄生株率が50%以上となったのは、全38地点のうち空知及びオホーツク地方の計2地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	67	83.9	185	107.5	66	188.0	1050	1018.9	38	37.6	51	64.1
2半旬	80	152.7	95	182.5	125	468.9	593	937.4	44	48.3	57	77.5
3半旬	19	158.5	94	174.2	110	771.5	1187	1216.6	56	54.9	69	87.9
4半旬	64	171.1	111	154.4	156	1748.9	814	1180.4	75	63.8	73	92.2
5半旬	-	138.8	63	94.5	-	609.0	1085	834.9	-	67.9	78	94.7
6半旬	-	46.8	61	85.9	-	47.7	838	896.0	-	35.3	91	96.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

巡回調査によるところの

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	4	24.0	12.8	0	25.6
	南東部	3	53.0	63.3	19.7	54.3
	南西部	3	66.7	48.3	44.3	73.3
	中空知	1	1.0	25.0	1.0	33.0
石狩	北部	2	20.0	14.0	25.0	4.0

ア)ミズノ普及率(%)

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
上川	富良野	4	2.0	27.0	8.0	43.0
	大雪	1	20.0	20.0	35.0	35.0
	士別	2	18.0	92.0	28.0	100.0
	網走	8	9.3	12.5	16.3	7.5
網走	本所	2	70.0	52.0	46.0	76.0
	清里	4	4.0	1.0	15.0	5.0
	美幌	1	15.0	44.0	19.0	0
	遠軽	1	15.0	44.0	19.0	0
十勝	本所	1	36.0	60.0	30.0	60.0
	東部	2	18.0	40.0	30.0	42.0

1. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年よりやや少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	30	11.5	20	23.5
2半旬	42	46.8	45	51.3
3半旬	44	48.4	46	81.7
4半旬	22	60.5	65	91.4
5半旬	6	37.4	37	81.2
6半旬	3	24.8	22	40.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや少なく、比布町、北斗市及び芽室町では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年よりやや少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	67	45.2	3	13.1	52	100.7	0	7.6	4	4.5
2半旬	113	71.1	0	20.7	46	76.4	1	4.4	1	3.3
3半旬	85	94.8	0	16.2	24	83.5	0	3.4	2	3.7
4半旬	35	79.6	0	9.1	14	53.2	2	5.9	0	3.1
5半旬	33	65.4	0	6.3	13	43.1	0	4.0	2	4.3
6半旬	25	71.3	0	4.6	4	48.0	0	2.8	0	4.2
平年数	10		10		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	0.4	5	9.5
2半旬	16	43.0	15	19.2
3半旬	136	65.4	69	63.4
4半旬	62	132.1	96	109.2
5半旬	0	113.6	23	100.6
6半旬	0	68.6	3	83.0
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

J. りんご

1. 黒星病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）での発生量は平年並であった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、発生は認められていない。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	13.3	32.2	36.1	42.3	40.8	46.9	9

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター			地点数	病葉率(%)	
				7月3半旬	
				本年	前年
後志	北後志	2	0	0	0
胆振	本所	1	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0
留萌	南留萌	1	0	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	0.1	1.4	0.3	1.8	2.4	2.4	10
王林	徒長枝	0.3	0.7	1.7	1.1	2.3	1.6	10

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昂林	徒長枝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0.3
渡島	本所	1	48.3	34.8
留萌	南留萌	1	0	0

3. ハマキムシ類 発生量 少

予察園のフェロモントラップによる誘殺数は、リンゴモンハマキは長沼町で平年より少なく、余市町A及びBでは誘殺が認められなかった。リンゴコカクモンハマキは、いずれの地点も誘殺が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは石狩市で平年より少なく、七飯町では平年並であった。札幌市及び壮瞥町では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキは、札幌市、壮瞥町及び七飯町で平年並だった。石狩市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	5.9	0	1.2	0	1.3	2	5.0	0	1.0	0	0.4
2半旬	0	2.3	0	0.2	0	0.8	0	9.7	0	0.7	0	0.1
3半旬	0	1.2	0	0.0	0	0.5	2	4.0	0	0.5	0	0.1
4半旬	0	1.0	0	0	0	0.6	2	2.1	0	0	0	0.1
5半旬	0	0.1	0	0.0	0	1.4	0	0.9	0	0	0	0.2
6半旬	0	0.3	0	0.1	0	1.0	0	1.0	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		6		6		6	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.5	0	0.3	0	0.4	3.8	2.7
2半旬	0	2.0	0	0.6	0	0.2	1.5	1.5
3半旬	0	1.3	0	0.0	0	0.2	0	0.5
4半旬	0	0.5	0	0	0	0.1	0	0.3
5半旬	0	0.4	0	0.0	0	0.1	0	0.2
6半旬	0	0.7	0.2	0.1	0	0.1	0	0.5
平年数	10		10		10		10	

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2.1	3.2	0	0.6	0.6	0	1.3	1.9
2半旬	0.9	3.4	0	1.7	0.4	0.1	0.5	0.9
3半旬	0	3.1	0	1.9	0	0.4	0	0.3
4半旬	1.7	1.3	0	0.3	0	0.3	0	0.6
5半旬	2.6	2.0	0	0.2	0	0	0	0.1
6半旬	1.7	0.7	0	0.3	0	0.2	0	0.1
平年数	6		6		6		6	

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町A及びB（ともに慣行防除）では平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや多く、被害果率が最大値に到達する時期は平年（7月6半旬）より早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市で平年よりやや少なく、壮瞥町で平年並、七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	81	36.3	6.9	9.7	24.4	26.2	138	74.2	14	13.4
2半旬	45	54.8	10.1	11.6	28.2	27.6	211	94.4	29	27.6
3半旬	30	80.0	15.9	15.7	34.4	29.6	277	152.2	81	53.6
4半旬	15	158.6	17.1	18.4	35	34.4	217	173.8	100	82.0
5半旬	28	131.8	7.9	24.1	20.7	37.6	277	134.2	100	97.4
6半旬	40.2	124.7	9.4	30.2	27.7	55.9	248	154.5	100	99.3
平年数	10		10		10		10		10	

注）余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	10	23.0	0.6	5.4	0	1.7
2半旬	4	31.1	1.6	6.8	0.5	3.4
3半旬	0	38.4	2.9	7.9	1.6	7.0
4半旬	32.5	38.3	10.7	12.4	2.9	16.0
5半旬	25.4	34.7	9.4	8.9	2.5	31.8
6半旬	17.1	36.8	7.7	10.4	3.4	50.5
平年数	10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リンゴハダニ及びナミハダニの発生はいずれの地点も認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.2
2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	0	0.2
3半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0.7
5半旬	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	2.2	0	0.4
6半旬	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	3.6	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は長沼町で平年より多く、余市町A及びB（慣行防除）では平年より少なかった。被害葉率は、長沼町で平年より高かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、七飯町では平年より多かった。札幌市、石狩市及び壮瞥町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	15	5.8	2.5	42.1	8.8	49.9	0.5	0.4
2半旬	10	6.9	7.1	41.2	6.9	48.3	0.5	0.3
3半旬	8	5.5	8.4	39.9	6.7	41.5	2.5	0.1
4半旬	18	6.4	0	40.6	10.7	59.7	3.0	0.3
5半旬	34.7	8.8	2.1	31.0	96.4	121.4	2.8	0.8
6半旬	34.3	13.4	3.1	56.9	90	309.6	2.5	0.9
平年数	10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.5	0	14.4	0	40.1	176.9	10.5
2半旬	0	0.4	0	27.0	0	55.8	162.8	14.4
3半旬	0	0.5	0	34.1	0	38.9	109.7	4.6
4半旬	0	0.2	0	37.9	0	32.2	44.3	3.7
5半旬	0	0.2	0	28.6	0	12.8	202.5	4.0
6半旬	0	0.7	0	8.3	0	28.9	292.6	4.3
平年数	10		10		10		10	

令和 8 年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

農薬ラベルに記載されている
安全使用上の注意または
被害防止方法を確認しましょう

作物名	適用 病害虫	使用 回数	使用 濃度	使用 時期	使用 回数	使用 方法	農薬の 危険性	被害防止 方法
コナノメダカ	10000							
アマガサヨコ バク	10000	60～ 150 L/10a	収穫 21 日前 まで	3回 以内	散布	3回 以内	使用時： 農薬の 危険性 を注意 する	
カメムシ類	20000							

OK?

その装備、準備バッチリ？

農薬散布時は、薬剤の直接付着や吸い込みを防ぐため、
適切な防護装備を着用することが重要です。

- ✓保護メガネ
- ✓農薬用マスク
- ✓不浸透性防除衣
- ✓不浸透性手袋
- ✓長靴

使用後は直ちに着替え、衣服を洗濯し、手洗い・うがい・入浴を徹底してください。

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisel/

農薬の適正使用 農林水産省

検索



令和 8 年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

北海道

令和 8 年 6 月 1 日～8 月 3 1 日

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課

(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)

北海道病害虫防除所

(TEL 0123-89-2080)

各総合振興局・振興局農務課